

平成 23 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0592200042	
法人名	(有)シャトル	
事業所名	グループホームことおか	
所在地	秋田県山本郡三種三種町鹿渡字千刈田 255 - 1	
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

利用者様がいつも笑顔で安心しお互いを思いやり楽しく過ごせ、笑い声の絶えない事 畑での収穫物の保存・活用で季節を感じたり、自分を主張できる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目 1番地の 1
訪問調査日	平成23年10月25日

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

事業所と同じ敷地内にショートステイが併設され、周りは田畑で静かでのんびりと過ごせる環境となっている。事業所は「地域に根ざした」ホーム作りに取り組みしており、利用者は天気の良い日などには、好きなきに散歩に出かけ、地域の方々との日常的な交流に繋がっている。管理者、職員のチームワークが良く、利用者へのケアにプラスになっている。理念にある「笑顔」を基本姿勢として実践しており、職員と利用者との関係も良く、利用者の表情も明るい。週2回の往診や予防接種など、協力医との医療連携を活かして健康管理面での支援を行っている。
--

.サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらい 3. 家族の 1/3 くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらい 3. 職員の 1/3 くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらい 3. 家族等の 1/3 くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)+ (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	立ち上げ時に創設した基本理念がある。また、事業所理念もあり、理念の中の「笑顔」がいつも絶えないホームにしたいため、創設時の理念を変えることなく目につく所に張り出している。	事業所の理念を「みんなの笑顔で創り上げる心の和」とし、見やすい場所に掲示している。代表者や管理者、職員も理念をよく周知しており、利用者の「笑顔、笑い声が絶えない安らぎの空間」を念頭に、常に行動している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	他ホームとの交流の為にボランティアを招いた時や近隣のホームを招待した時などは近隣の方を招待したり、散歩に出かけ敷地内で休憩させていただいたり、ホームの製作物を提供したりしている。	日常的に地域の方々と挨拶を交わし、事業所の畑を耕してもらったり、花、野菜等を頂いたりしている。また、事業所の催し物等に招いたり、町民祭に利用者が創作した物を展示する等、地域との関わりを大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	交流会や夏祭りなどで関わりを持っていただいたり町民祭への参加時や、通学児童のためにトイレ提供や中高生のボランティアの受け入れを介して広めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣の方やボランティアに参加される方が構成メンバーにあり、取り組みなどが検討出来やすく、向上するために活かしやすい。	4か月に1回運営推進会議が開催されている。会議では、事業所からホームの運営についての報告の他、家族や地域住民から意見、要望等を聞く良い機会となっている。	運営推進委員が不確定となっているので、地域や行政に参加を働きかけると共に、2か月に1度の開催に向けて取り組んでいくこと、外部評価等も議題として意見交換を行っていくことが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。包括支援員の方には、利用者様の状況の変化時や空室時の受け入れなどの状況を提供している。町の広報は、月2回利用者様分提供していただいている。	分からないことや相談事があれば、都度、隣接する介護支援センターを介して町の担当者に連絡をしている。包括支援センターには、利用者の症状が変化した場合の状況や空室の情報等を伝えている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は研修に参加することは出来なかったが、生命に危険が及ぶ場合などは家族様に説明し、同意書に印鑑をもらい、1週間での見直しや検討などを行っている。夜間以外は玄関の施錠はしていない。	玄関の施錠は夜間のみ行っている。利用者が外に出そうと素振りがあるときは、さびげない声掛けや見守りをするように心掛けており、全職員が「拘束をしないケア」に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の利用者権利擁護指針があり、職員が目につきやすいところに掲げ、虐待のない、明るく楽しい安全安心に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用している方が3人ほどおり、毎月の支払いや安否確認に訪問してもらい、相談にのっていただいている。今年度研修に参加できなかったが、いつもは参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し納得していただくまで、話し合いできる体制を作り、改定などが生じた時には文書を送付したりして、理解、納得していただいている。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただいたり、お便りを月1で発行して外部に知らせる機会を設けている。	家族からは、入所時や面会時に話をする機会を設け、意見や要望を汲み取る努力をしている。利用者からは、コミュニケーションを密にし、さりげなく聞き出すようにしている。毎月発行の事業所便りを家族に郵送し、ホームの活動状況を理解してもらうように努めている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人アンケート(異動、昇給なども含め)実施時期に意見や提案を出してもらい、個人面談などを設けている。	日常の業務の中や毎日のミーティング時、毎月開催される職員会議をとおり、職員の意見や要望等を聞く機会を作っており、運営に反映するように努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給、昇格に対して、意見や要望を言いやすい環境を作っており、やりがい、働き甲斐のある環境を整えてくれている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の有無に関わらず3年を目途に職員への登用、資格取得のためのシフト変更などがある。新人教育のためや既存職員の為の職員指導員の設置、社協関係などのスキルアップのための研修・講習参加の促しがある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡部のグループホーム協会などに加入し、研修・講習などに参加して交流を深めている。ボランティアのリサイクルクラブを招いた時には、近隣のホームも招待し、交流を深め、顔見知りなどを増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族様や関係者様からご利用者の情報を貰い、バックグラウンド作成などを基に皆様のご要望に沿えるようプランを作成し、個別対応して安心できる関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今日までの実績を説明したりお便りや写真などを基にホームでの概要を知っていただき、不安な要素を取り除けるようにじっくりと時間の許す限り関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事や郷土料理、保存食などを作るときなどに共同作業としてアドバイスをいただいたり、畑、花壇の水掛など出来る所は協力していただき励みにしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は地域に明るく共有する郷土料理や日常生活の中での行事等に対してアドバイスを受けたり共に製作したりしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	近隣より入居されている方が多いため、話などが共有できるほか、散歩や地域の行事等に参加し、つながりを大事にしている。	利用者に地域の友人や知人が訪れた際は、居室やホールでゆっくりと会話できるように配慮している。ドライブの際、利用者の慣れ親しんだ場所等をコースに盛り込む等、関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係が円滑になるよう職員が目配りし、自分の主張も通しつつ相手をも受け入れられる関係を保つよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、いつでも相談援助が出来るように系列の居宅などに紹介したり、お見舞いや顔出しなどを続けている為か、帰郷した家族が顔出ししてくれたり、山菜の差し入れなどをしてくれる。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話に耳を澄ませ行動などをよく観察したり、利用者様との会話の中より本人様の意向や思いを引き出し、自分の思いを遂げられるように努める努力を怠らないようにしている。	散歩や入浴介助、食事の時等の会話から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。把握の困難な場合は、日頃の行動や言動から推測したり、家族からの情報を基にしている。申し送り等で情報の共有を図っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴などを大事にし、関係機関や面会時の家族様・友人様からの情報などを大事に活用させていただき、他利用者様との弊害が生じない様に過ごしていただいている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	注意深く観察する事を怠らないように、職員間の連携を濃くし、穏やかで張りのある明るく楽しい日々を過ごしていただくよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの担当が居る為、前担当のアドバイスを得たり、管理者を含め、家族や関係機関との話し合いを参考にプラン等作成している。	カンファレンスは日々の業務の中で行っており、介護計画の更新時には、管理者、ケアマネージャーと各担当者で話し合っている。体調や状況に変化があった時は、随時、計画を見直しており、利用者、家族に説明し了承を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個人記録などを参考に情報を共有し、マンネリ化を避けるように努力している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々の訪問や中学生や高校生のボランティアの受け入れの他、町内の他施設などの行事にも参加し、自分で出来る事、関われる事には積極的に参加できるよう支援している。		
30	(1)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様ご本人様の希望に添い、入居前からのかかりつけ医などの医療機関を利用して、必要な情報も確実に提供するように、医療機関との連携を取っている。	利用者及び家族の希望を尊重し、個別にかかりつけ医への受診や健康診断、往診を支援している。多くの利用者が事業所の協力医をかかりつけ医としており、週2回の往診、予防接種、3ヶ月毎の血液検査等、健康管理を含めて協力医との連携を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の往診に来られる医師や同行する看護師、ショートステイ看護師との連携、情報の共有などを密にして、アドバイスをいつでももらえる状態にしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から紹介状を頂いたり、状況に応じて退所期間の延長をしたりして対応している。今後の相談にもものごともあり、利用者・家族様に不安を持たせないように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で、終末期の看取りは看護師の常駐が無い為受け入れはできないことを伝えている。重度化・医療に関わる事態になる前に、家族、かかりつけ医と話し合い、ご利用者様に適した医療機関などに紹介している。ご家族様の強い希望があれば、看取り近くまで対応する用意がある。	契約時に、事業所として終末期に係る支援は行わないことを説明し了解を得ている。重度化や症状の悪化等で医療行為が必要な場合は、かかりつけ医と連携を図り、家族と話し合いながら希望に沿うように、事業所で支援できる範囲で対応している。	今後、重度化に対応する介護力を身に付ける機会を多く持つことその他、「看取りに関する指針」等のマニュアルの作成が望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は、1年以上上居る職員は更新しながら取得している。マニュアルは目につく所に貼りだし会議等で再確認している。一部の職員は対応できるが完璧とは言えず、指導段階である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な非難・防火訓練を行っている。本格的に夜間に訓練した事は無いが、今回の震災・停電時に一部集合できた。隣にショートがあり母体が建設会社のため、社員の協力を得られる。職員は近隣者が多いのも強みである。	年2回消防署の協力を得て隣接するショートステイと合同避難訓練を行い、内1回は夜間想定で行っている。事業所内には消火器や火災報知器、スプリンクラーを設置している。非常時に備え食品等の備蓄があり、点検しながら入れ替えを行っている。	避難訓練等の計画に地域消防団や地域住民の参加も検討するなど、さらに防災対策を充実させる取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や特徴を掴み、その方にあわせた言葉掛けや対応に努めている。	職員は、利用者の立場に立ったケアを心がけており、常に笑顔で接し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。個人の書類を事務室内の保管棚に収納している他、トイレや入浴介助時のプライバシーへの配慮等、利用者の尊厳を支えるケアに努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	挨拶から始まり日頃のコミュニケーションを大切に、お互いの信頼関係を育む中で自分の思いを遠慮せず表現できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活習慣と本人の意思を尊重し、集団生活の中でも自分のペースが守られ一人ひとりの希望に添った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入浴・毎朝の整容ではプライドに配慮している。好みの衣類を身につけて頂いているが、病氣的な事がありちくはくなコーディネートであっても、個人の意見を取り入れ、他者の注目の的にならないように考慮している。本人・家族の意向の理・美容室の利用を支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑や提供していただいた野菜・山菜を活用し、下準備・後片付けなどに参加してくれる。食材を前に食べたい料理や、調理法を教えてくれる。「おいしいおいしい」と嬉しい言葉を下さり職員を食事作りに奮起させてくれる。	利用者の状態に応じて、調理の下準備やテーブル拭き等を職員と一緒にやっている。普段の会話から食べたいものを確認し、職員が立てる献立に盛り込んでおり、職員と利用者が一緒に収穫した野菜が食卓に上る事もある。同法人のショートステイの栄養士から、栄養管理等の指導を得ている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録を活用して一人ひとりの心身の状態を把握し、状態に応じて栄養補助食品活用などする事があるが、楽しみながらみんなの声がけや話し合いにより確保できている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一部介助、見守りにて義歯洗浄、うがい、ブラッシングの習慣をつけていただいている。夕食後は、義歯の付属品の洗浄、消毒を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を毎日記録、1ヶ月単位での比較表にも記録している。心理状態の読み取りとの併用にて、自立に向けた支援に役立っている。	排泄チェック表等から利用者の行動 排泄パターンを把握し、さりげない声掛け等でトイレ誘導し、排泄の自立に向けた支援を行っている。失敗した場合でもさりげないケアで、自尊心に配慮した対応を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄記録を参照し、個人のサイクルを確認、心理状態をも加味しながら、運動・食物・水分など考慮している。主治医との連携もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、入浴日 時間などの設定は設置しているが、利用者様の希望に添えるよう職員は常に入浴介助の用意は常備しており、状況に応じて対応している。	入浴は週3回となっている。毎朝のバイタルチェックや心身の状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している。入浴を好まない利用者には、その時々に合わせて言葉掛けをするなど、工夫しながら入浴支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況、体調に応じて対応しているが、1時から2時までは休憩時間と定めて自室にて休息していただいている。それ以外は利用者様の自由な時間としている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係者との連携が取れており、服薬の増減・変更が見られた時には、申し送りにて周知徹底するようにしている。新薬の効能などの情報もPCより取り入れたりしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持てる力、出来る事、したい事など生活歴や家族様の情報を基に、お手伝いや自分でやりたいことをしていただいている。お手伝いカードなどがある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	畑や東屋などが設置されており、希望に応じて戸外に出かけられる。約2ヶ月に1回の外出・車の都合がつくときにはドライブに出かけたりの支援をしている。極度な不穏時には気分転換に外出することもある。	出来るだけ全員で外出するよう心がけ、弁当を持参で近くの公園に出かけたり、道の駅へのドライブ等を楽しんでいる。天気の良い日は、道路を挟んだ敷地にある東屋を語らいの場としている。また、事業所前の道路沿いが散歩コースとなっており、地域住民と言葉を掛け合う機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理にて所持しておられた際、物取られ妄想などにより他者を巻き込んだり、散財しようとするケースがあり、家族と協議し、結果休止している。家族との同行にて買い物したり、ホーム立替にて対応している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、定期的になるべく自筆にて書いていただき送らせていただいている。都合のつく御家族様よりはお返しの葉書が届いたり、定期的に絵手紙を届けてくれる方がいる。希望に応じ電話にて会話されることもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主だった所には温度、湿度計設置し、季節感を感じていただく為の製作物作り、写真などの張り出しで思い出の掘り起こし、入浴剤の活用、悪臭にはほどほどの消臭剤使用、定期的な見回りにて不快、混乱を招かないように工夫している。	共用空間は広く明るく清潔に保たれており、ホールや廊下の壁には絵や写真が飾られている。居室前の壁には、利用者自筆のネームプレートが掛けられている。トイレは3カ所あり、各居室から利用しやすいように配置されている。快適な温度と湿度が得られるよう温度計、湿度計が所々に設置されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	小さいが畳の小上がり、ソファ、ベンチなどを設置し、思い思いに使用されている。一人で居るよりは仲間との語らいが大事で、お昼休みや就寝時も別れがたいよう丁寧な再会の約束をされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活歴などを大事に、自宅で使用していた仏壇・遺影なども持参していただき、自分の癒し、自宅と差の無い落ち着いた居心地の良い空間であるように工夫している。日中は排泄パターンに合わせ、自尊心を傷つけないよう言葉掛けを行い、自力での排泄を促すためのトイレ誘導をしている。	居室に備え付けのロッカーの他は、利用者が今まで馴染んできた愛用のタンス、テレビ、ベッド等が置かれ、壁には家族の写真が飾られる等個性が溢れ、思い思いの居室となっていることが確認できた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身の回りの掃除、お手伝いなど自分で出来る所は率先して手伝っていただき、格差が出ないように個々の能力、体調、力量に応じ声がけ、励ましで、自立に向け配慮して支援している。		